

事業所名： グループホームはなまる

作成日： R3 年 4 月 9 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。

優先 順位	項目 番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	2	今後もコロナ禍における園児等との交流方法(ビデオ交流等)を検討すると共に、小学生の登校時の見守り活動(児童への挨拶、横断支援)を行うなど、更なる地域交流の在り方を検討していく予定である。	コロナ禍で停滞している、「地域との交流」をあらためて見直し、さらなる交流を構築する。	・ホーム前の横断歩道における小中学生の横断支援。 ・運営推進会議メンバーとのグループLINEによる連絡網構築(災害対策兼ねる)。	12 ヶ月
2	28	開設時に他のホームと一緒に作成したアセスメントシートを活用している。今後は①ADL、IADLの「できそうなこと」をペンの色を変えて○を追加したり、②「できない理由」「介助理由」「ご本人の真の思い」「解決策」等を増やし、介護計画に繋げると共に、③3表(日課表)の一番右欄にケア時の留意点等を記載していく予定である。	アセスメント表の見直しを行い、ケアプランにつなげる。	・既存のアセスメントシートを活用し、①②の項目の追加を行い、ケアプランにつなげていく。 ・ケアの留意点は日々の記録を行う「生活日誌」に記載欄があるので、それをタイムリーに変更し、活用する。	3 ヶ月
3	37	今後も消防署等のアドバイスを災害マニュアル等と一緒に保管し、訓練時に活かすと共に、地域活動を通しネットワークが広がっており、非常災害時等の連絡体制の検討を行う予定である。	現状の消防署員による避難訓練等をより効果的にする。また一方、地域活動を非常災害時に活用できるようにする。	・避難訓練時に消防署員から指摘された内容を「災害マニュアル」と共に保管し、スタッフへの周知を図る。 ・夜間パトロールスタッフや運営推進会議メンバーとグループLINEを作り、非常災害時に活用できるようにする。	12 ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月